

八戸青年会議所理事長賞

花とわたしの出来事

白鷗小学校 三年 新町 花埜

わたしの名前は「花埜」です。草花はふまれてもふまれても立ち上がるように、苦しいことがあってもねばり強く生きてほしいから、名前に「花」の字をつけたそうです。

三年生の理科の花を育てようの学習で、ホウセンカを育てることになりました。ゴールデンウィーク明けの理科の時間に、だんご虫の赤ちやんが体を丸めたような小さな茶色つぼい物を先生が見せてくれました。たねです。ホウセンカのたねでした。わたしはすぐに虫めがねで見ってみました。すると、たねの表面にぶつぶつとでこぼこがありました。うちゅうにある火星みたいな、でもちがうようなふしぎなたねでした。二年生のときに育てたザリガニのえさのようでもありました。

次の日、ホウセンカのたねをまきました。「大きくなあれ、大きくなあれ。」と、たねに向かってささやきました。

五月十七日、めが顔を出していました。九ミリメートルくらいのくきがありました。さいしよの葉っぱがおだんごのように丸まっています。こんな風になるんだなあ、すごいなあと思いました。

三日後、二まいの子葉が開いていました。ヒ

マワリの子葉より丸くて、先が少しくぼんだ形でした。

「トトロのなか間の中トトロと小トトロが、かさのかわりに持っている葉っぱみたい。」と話かけました。

それから毎日のように水やりをしました。朝学校に着いたとき、中休みのとき、昼休みのとき、学校から帰るときに見に行きました。

子葉とはちがう形の、細長くてぎざぎざした葉っぱが出てきました。くきものびてきました。下がわのくきがちよつと赤みがおびてきました。ウイルスにかかっちゃったのかなあと心配になりました。でも、教科書を見たら同じだったので、病気じゃなかったんだなあ、ほっとしました。

夏休みになると、数えきれないくらいに葉っぱがふえました。くきの高さも、わたしのひざのところよりも大きくなりました。花の命も人と同じように大切だなあ、花も生きているんだなあと思いました。

それなのに……。ある日、わたしは水やりをわすれてしまったのです。太いくきなのに、おなかを半分に切られたようにおれまがつて黒くなっていました。左右に広がっている人の両手のような葉っぱが、かたを落としたように、だらあんとなくなっていました。

「あらまあ。」

とわたしも、かたを落としてしまいました。大いそぎで水をたっぷりあげました。一時間後、

かたほうは水をすいとって元気になったのに……。もうかたほうは……。三時間後、びんともにもどっていました。それを見たわたしも元気になりました。これからはぐったりさせないようにするからね。